

## B-3:研究コンプライアンスとリスク管理

開催日時・会場 9月14日(火曜日) 15:50-17:20 中会議室201(2階)

### オープンサイエンス時代におけるプレプリント

本セッションでは、今日利活用が急速に進展しているプレプリントについて理解を深めるため2つの講演と意見交換を行います。

今日、情報通信技術の発展を背景としてオープンサイエンスが進展しており、研究論文、研究データを中心とした研究成果がよりオープンで、より迅速に共有、公開されることが推し進められています。研究成果をより広く迅速に共有する方法の一つとして、査読前の草稿原稿であるプレプリントの活用が急速に進展しており、プレプリントをオンラインで共有するためのプレプリントサーバも多様な分野で整備され、多くのプレプリントが投稿されています。

現下の世界的なCOVID-19の感染拡大による、学術知の迅速な共有への社会的要請によって、プレプリントの利用拡大はさらに加速していると考えられます。その一方で、社会的にも関心の高い事項に関する研究成果が、査読前の草稿であるプレプリントしてより多く公開されることに伴って、課題も浮き彫りとなってきています。

オープンサイエンスの進展と、プレプリントの利用拡大、またその課題については、第6期科学技術・イノベーション基本計画においても言及されている事項であり、研究活動の当事者である研究者はもとより、URAを始とするリサーチ・アドミニストレーション活動にかかわる方、関心を持っている方にとっても理解を深めておくべき事項と言えます。

以上を踏まえ、本セッションにおいては、オープンサイエンスを駆動する重要な媒体であるプレプリントについて、現状と可能性及びその課題を概観し、進みつつあるオープンサイエンスの一側面について理解を深める機会とするため、プレプリントについて造詣の深いお二人の専門家をお招きし、プレプリントに関する概論と最近の状況、また国内研究者に対する調査に基づく講演を行います。その後、フロアとの質疑応答、意見交換を行います。

### オーガナイザー

矢吹 命大: 横浜国立大学・大学戦略情報分析室・  
准教授



筑波大学大学院人文社会科学部国際政治経済学専攻単位取得退学、修士(国際政治経済学)。筑波大学大学院人文社会系特任研究員として巨大科学を巡る国家間関係の研究に従事した後、2014年横浜国立大学特任教員(講師)・URA。2020年4月より現職。大学戦略情報分析室において大学経営判断を支援する各種情報収集、提言を行うと共に、URAとしては研究力分析、オープンサイエンスの推進に取り組んでいる。

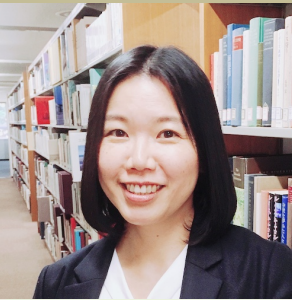
## 講演者

### 林 和弘:文部科学省科学技術・学術政策研究所・ データ解析政策研究室・室長



東京大学大学院に在籍中の1995年ごろより取り組んだ日本化学会の英文誌の電子ジャーナル化と事業化をきっかけに、学術情報流通の変革を軸とした科学、社会、科学と社会の変容（オープンサイエンス）の調査研究と実践に取り組む。2012年から文部科学省科学技術・学術政策研究所（現）に着任。G7, ユネスコ, OECDや日本学術会議, 内閣府等のオープンサイエンス専門委員等を歴任しつつ, 研究データ利活用協議会等の草の根活動にも取り組む。

### 池内 有為:文教大学・文学部・講師



大学図書館勤務を経て、筑波大学大学院博士後期課程にて研究データ共有を中心としたオープンサイエンスの研究に取り組む。博士（図書館情報学）。国境や分野を超えたオープンサイエンスの実現を目指し、日本学術振興会人文・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター研究員、日本学術会議情報学委員会国際サイエンスデータ分科会WDS小委員会、文部科学省研究振興局学術調査官（図書・学術情報流通担当）として活動中。